

しま 地域だより

1
月号

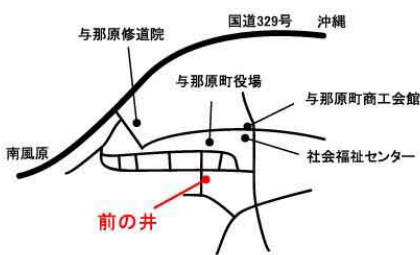
サザンクリーンセンター推進協議会



湧水
地域の井

メーヌカー 前の井

所在地 / 与那原町字上与那原73



与那原発祥の地である上与那原。グスク時代になると肥沃なジャーガル地帯が開発され、役場周辺の丘陵地には多数の遺跡が点在している。その一角にあるのが「前の井（メーヌカー）」。琉球王朝時代、王府への上納成績が優秀な村に贈られた御拝領井（ごはいりょうがし）として約200年前に造られた。平成11年4月には町の指定文化財にも登録されている。

現在、カーの周囲には安全のため鉄格子を取り付けられて

いるが、昔はヤンバル竹を敷いてオーヌイ（青い藻）の発生を防いでいたという。水道が整備されるまでは地域の大事な水瓶として人々の生活を潤していた。

地域に住む新里精徳さん（83歳）「昔の人は産湯にもあのカーの水を使ったので、生まれたときから恩恵を受けているんです。小学校高学年の頃から毎日の水汲み子どもたちの日課でした。お家の水瓶を一杯にするため、ターグ（おけ）を担いで4、5回は往復しましたよ。そうしないと夕飯がもらえなかった（笑）。2月ウマチー、5月ウマチー、与那原大綱曳の際の拝みは、物心ついた頃から欠かしたことはないです。今でも心が和んで穏やかになれる場所さあ」。

与那原町議会議員説明会 財政負担を考慮し計画を

サザンクリーンセンター推進協議会は、去る12月4日(火)15時から与那原町議会議員に対し説明会を開催した。事務局から平成19年度サザン協の動き、一般廃棄物最終処分場事業に関する見解等について説明があり、その後、質疑応答が行われた。

質疑については、①サザン協を立ち上げてこれまでどういう経緯をたどったのか②今後、糸満市との関係を含めサザン協としてどういう方向性で進むのかの二点に絞って行われた。古堅会長は、「色々な問題もはらんでいるが全体として良い方向に進んでいる。南部地域のごみ問題は4年という限定された期間内で問題解決に当たらなければならぬ。」と出席議員に理解を求めた。説明会は町議会からの要請で行われた。主な質疑の内容は次のとおり。

糸満市の加入については

Q サザン協の処理方式が決まってから糸満市が加わるのか。また正式に加入が決まったら三案を検討するのか。

A 糸満市の加入後、現在の案を軸にストー力直結溶融炉も含めベストな選択を行うことになるだろう。

Q 旧南廃協からサザン協へ移行したが、取組む内容が見えにくい。

A 糸満市が脱退した後に再加入の動きがあるが、条件やペナ

ルティーがあるのか。

A サザン協の各部会、委員から「南部は一つ」の方向性で再考をーとの要請を受けて糸満市の再加入についての話し合いを進めた。条件設定やペナルティーは一切無い。

Q ガス化溶融炉建設が進むには問題有りと考えていたが、本日の説明を聞いて安心した。ストー力直結溶融炉は最近になって情報が入ったのか。

A 以前から話は出ていた。ただ、当時は最終処分場を始めた、独自の施設建設が必要だった

ので直結型がクローズアップされることはなかった。現在の南部のごみ問題を取り巻く状況に変化が出てきた上での新たな部分である。

ガス化溶融は既定路線なのか

Q ガス化溶融施設は残渣が出ないというが事実か。既存施設が稼働する中で、ガス化溶融施設も焼却施設であり、国からの交付金の対象外ではないのか。その点はクリアされているのか。

A 最新の技術で環境に負担が

かからない方式を模索した結果の選択肢の一つではあるが、理事会上に諮ったことではない。現施設が稼働している段階では補助対象にはならないと聞いている。

Q 建設費を考えるとより慎重な議論が必要だと思う。この場ではガス化溶融施設の内容について話し合われると思っていたが、今頃になって新たな処理方式も考えているという。補助金の面も含め早めの対処は出来なかったのか。

A ガス化溶融施設という言葉が一人歩きしている。直結型も含めて将来の一元化に向けて議論したい。

Q 処理方式によっては130億という金額になる。財政が厳しい折、建設計画をもっと吟味して欲しい。

A いろいろなケースを考えて第一回から三案を提出して頂いた。理事

会の決定を得ているものではない。

Q 残渣が出ないという表記は誤解を招くのではないか。最終処分場は必要なのではないか。

A ガス化溶融施設からはスラッグ、飛灰、メタが排出される。また、キルン方式では塩分が排出されるようだ。その他の物質の排出は全くないという回答を得たのであの表記にした。



与那原町議会議員への説明会の様子

南城市議会説明会 サザン協方向性・早期構築を！

サザン協は、12月4日の与那原町議会に続いて、12月20日（木）14時から南城市議会議員に対し説明会を開催した。会議の冒頭、川平善範議長は「本日の説明会は、マスコミ報道が先行しているサザン協の事業内容について説明を受けるという形で我々が依頼した。事務局側としても全てを明確に説明するにはもう少し時間が必要だと思う。事務局の話のできる可能な範囲でお願いしたい。」との前置きがなされた。質疑の場ではサザン協への糸満市加入について質問が集中した。内容は次の通り。

Q 糸満市の再加入呼びかけに
関して、サザン協側からポー
ルを投げた。その際の条件は
あったか。

A また、処理方式と用地の選
定がなされない状態で今日の
説明会の意味はあるのか。

Q 具体的な話し合いは市町長
間で協議された部分があり、
事務局側で全て把握している
わけではないが、条件はない
と聞いている。糸満市の加入
に関しては、今後サザン協の
理事会に諮る流れになる。た
だ、すぐに進展するという訳
にはいかないだろう。

サザン協の事業は糸満市の
動向を見守る状況であった。
年明け早々に問題点を一つ一
つ精査していきたい。今後の

動きがあれば三役・理事会と
協議して説明するつもりであ
る。

Q 9月以降はサザン協が組
織として機能していない。事
務局が表立って行動を起こす
と反対が起き、水面下で調整
を進めるとマスコミ報道が先
行する、そのジレンマは理解
できる。

ガス化溶融方式については、
既存施設の稼働との絡みで交
付金の対象外であると説明が
あった。その経過の説明を求
める。
また、事務方はどう考えてい
るのか。

A 最終処分場の建設推進で過
去の頓挫があったことは理解

して頂けると思う。当該事業
の推進は、残渣を受け入れて
もらっている四年間という絶
対的な期限の中で、東部、島
尻、豊見城市の焼却灰の処理
をどうするかということと総
合的に判断した上でガス化溶
融方式も検討がなされた。さ
らに今は糸満市が進めている
のストリーカ直結方式型溶融炉
も改めて議論される場に出
てきた。

ただ、東部と島尻とも十分
協議しなければ明確に回答で
きないが、仮にガス化溶融で
進む場合、現時点では補助の
対象は厳しいと聞いている。

Q 糸満市とサザン協の今後に
ついては、理事会及び三役会
を持たなければならぬだろ

う。その辺の見解は。
A 理事会の議を得るところだ
が現在の流れでは豊見城市は
糸・豊の共同処理で進むのが
合理的と考える。平行してサ
ザン協への糸満市の加入につ
いても話し合われるだろう。

Q 旧南廃協の糸満市の問題を
精査しないうちにサザン協は
見切り発車したのか。結果、
時間だけが進み、我々は分担
金だけを納めている状態だ。
現在の混乱は予想されていた
のではないか。

A サザン協の事業は
将来の広域的なごみ
処理の一元化である。
複合的な問題が交差
する中で、今から手
をつけたいといけな
い。理解をお願いし
たい。



南城市議会議員への説明

A ストリーカ直結溶融炉が一人
歩きしている現状がある。正
式な場、いわゆるサザン協の
理事会で処理方式について話
し合いの場はこれからである。

Q 理事会答申の三方式案につ
いて。安全性に関するデータ
はないのか。

A 先進地の施設に限らず、事
故の事例データは事務局で全
て把握している。必要ならば
改めて提供したい。

シリーズ ごみ問題に向けた八重瀬町の取り組み

南部地域の家庭ごみの処理施設建設に取り組むサザン協、喫緊の課題であると同時に、真の循環型社会の構築実現に向けて、まずは「ごみを出さない」ことが最重要課題であり、それには市民意識の向上が不可欠との認識は行政側、住民側とも共通する。ごみ処理量削減が施設の規模縮小に直結し、ひいては建設コストと財政負担の軽減につながる。サザン協を構成する各自自治体は、主導者としての立場から住民の意識向上に様々な施策を講じている。

サザン協を構成する五市町（与那原町、八重瀬町、南城市、豊見城市、西原町）の担当責任者に、ごみ問題に向けた各市町の取り組み、南部地域のごみ処理の現況と今後の方向性等について聞いた。今回は八重瀬町。

八重瀬町の取り組み

今回取材した八重瀬町では、町内の各家庭に、正しいごみの出し方、のポスターを配布



八重瀬町役場環境保健課の新垣進課長

し、ごみの出し方と分別の周知徹底を図っている。現在、町のごみ収集は合併前の旧具志頭方式と旧東風平方式の二方式が共存するが、行政改革プランに基づいて回収日を統一する計画があり、調整など課題も少なくない。

環境保健課の新垣進課長は、「効率的なごみ処理運営に向けた取り組みが進められている。併せて住民の意識を啓発する講演を始め、住民参加型のごみ減量への取り組みが求められる。構成市町ごとに様々なアイデアがあるはずだ。先進的な事例は積極的に見習

いたい。」と事業推進に力を込める。

南部地域のごみ処理について

南部のごみ問題は一行政で取り組むにはあまりにも大きな課題であり、施設を一元化し、今一度「南部は一つ」の理念に立ち返る必要がある。一方、建設地には地域還元施設と呼ばれる設備が整備されるが、それについては「近隣の那覇・南風原クリーンセンターは還元施設も素晴らしく、地域住民が集う場になっている。人が集まることでごみ処理への意識向上にもつながる。」として、建設地が地域の発展を促すものであるとの認識も覗かせた。

「近年のごみ処理施設は、技術の進歩により環境負担の少ない処理が可能と聞く。是非とも糸満市を加えた南部広域で最新の施設建設に向けて取り組んで欲しい。今後様々な問題が出てくるはずだが、住民や地域環境への負担を最大限に考慮し、大所高所から取り組んでほしい」と語った。

糸満市を言む広域体制に期待

南部地域のごみ処理の現況と今後の方向性等について、沖縄県文化環境部環境整備課の安里健課長に聞いた。

沖縄県ごみ処理広域化計画について

沖縄県では、平成十一年度から二十年度の十年間を計画期間に複数の市町村が共同でごみ処理を行う体制を促進するため、「ゴミ処理広域化計画」を策定し、様々な課題解決に努めている。

南部地域ごみ処理の現状課題について

サザンクリーンセンター推進協議会において、平成19年4月から、南部地区への廃棄物処理施設整備に向けて取り組んでいる。

同協議会は、「南廃協」から糸満市が離脱したため、2市3町で構成する任意団体として発足した経緯があるが、糸満市の再加入を検討すべきとの意見がある。

当課としては、関係市町の努力によりできるだけ早い時期の体制整備を期待している。なお、従来より交付金制度や廃棄物処理方式等、今後とも関係機関と連絡を密にして、

地域に受けられる安全・安心なごみ処理施設の整備が図られるよう引き続き指導・助言を行いたいと考えている。南部のごみを焼却、減量化、最終処分まで、広域的に処理するシステムの構築を願っている。

サザン協H20年3月までのスケジュール

1月上旬	会長調整 市町長会議(予定)
中旬	サザン協正副会長会議(予定)
下旬	理事会(予定)
2月上旬	全体部会説明会(予定)
2月中旬	構成市町議会説明会(予定)
2月下旬	構成市町議会説明会(予定)

「地域だより19年12月号」記事中に誤記がありました。訂正文を掲載してお詫び致します。

【2面下段写真説明文】平成22年までの期限で島尻、糸、豊清掃施設組合の焼却残渣を受け入れる倉浜衛生施設組合の最終処分場。

【3面一段二行目】最終処分場で東部清掃施設組合（倉浜のごみ）の一部焼却し、その焼却灰を処理している。

発行者
サザンクリーンセンター
推進協議会会長 古堅國雄

住所
〒901-0401 島尻郡八重瀬町
字東風平965番地

電話
098(998)8857

FAX
098(998)9420

http://sazankyo.net